

文化人類学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
文化人類学特論Ⅳ	芸術文化とジェンダー／セク シュアリティ	2	中村 美亜	前期集中 その他 連講	
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2	川口 幸大	前期 月曜日 3講時	
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学の視野と思考	2	越智 郁乃	後期 月曜日 3講時	
文化人類学研究演習Ⅲ	英語古典原書講読	2	沼崎 一郎	前期 火曜日 2講時	
文化人類学研究実習Ⅰ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	前期 水曜日 3講時 4講時	
文化人類学研究実習Ⅱ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	後期 水曜日 3講時 4講時	
文化人類学特論Ⅴ	災害人類学	2	ボレー・ペンメレン・セバス チャン	後期 金曜日 3講時	

科目名：文化人類学特論Ⅳ／ Cultural Anthropology(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：中村 美亜

コード：LM98811, 科目ナンバリング：LGH-CUA604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：芸術文化とジェンダー／セクシュアリティ

2. Course Title (授業題目)：Arts and Gender/Sexuality

3. 授業の目的と概要：芸術文化は、趣味や娯楽の対象にとどまらず、自己表現、集団表象、ケア、アクティビズムなど人間のさまざまな営みと深く関わっている。本授業では、「芸術文化」を美術や音楽などの狭義の芸術だけでなく、文化表現一般も含む広い概念として捉え、これらとジェンダー／セクシュアリティの関係について理解を深めていく。文化人類学に加え、芸術学、哲学、社会学、認知科学、ケアなどを含む学際的な内容である。授業では、理論や事例に関する講義だけでなく、グループディスカッションやプロジェクトなど体験的学習も積極的に実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Arts and culture are not mere hobby and entertainment but highly related to self-expression, collective representation, care, and activism. Considering arts and culture in a broad sense - not only high art such as fine art and music but also cultural expression in general, this course aims to deepen understanding of the relationships between gender/sexuality, and arts and culture. Discussions are interdisciplinary, encompassing anthropology, arts studies, philosophy, sociology, cognitive science, and care. Classes consist of lectures and case studies as well as group discussions and projects.

5. 学習の到達目標：(1) 芸術文化、ジェンダー／セクシュアリティに関する基本的概念を習得する。

(2) 芸術文化とジェンダー／セクシュアリティの関係を理解する。

(3) この分野の課題を主体的に発見し、探究する能力を高める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Learn the concepts of arts and culture, and gender and sexuality.

(2) Understand the relationships between arts and culture, and gender and sexuality.

(3) Find agendas in the field and explore them proactively.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. ジェンダー

3. 表現とコミュニケーション

4. セクシュアリティ

5. 非言語コミュニケーション論

6-7. ジェンダー／セクシュアリティと表象

8-9. ジェンダー／セクシュアリティとアートアクティビズム

10. まとめ

11~14 グループプロジェクト

15 グループ発表と講評

8. 成績評価方法：

授業への貢献（出席、グループワーク、発表など）とレポート

9. 教科書および参考書：

【参考書】

中村美亜『クィア・セクソロジー—性の思いこみを解きほぐす』インパクト出版会、2008 年

中村美亜『音楽をひらく—アート・ケア・文化のトリロジー』水声社、2013 年

中村美亜「アートと社会を語る言葉」、九州大学ソーシャルアートラボ編『ソーシャルアートラボ—地域と社会をひらく』水曜社、2018 年

など

10. 授業時間外学習：翌日の準備、レポート課題

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：文化人類学研究演習 I / Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LM11303, 科目ナンバリング：LGH-CUA605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

3. 授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To examine key concept and interest of cultural anthropology through the research of the theory and ethnography

5. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To complete reference and review for your research topic through the investigation into previous studies

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. 最終報告

8. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学研究演習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LM21301, 科目ナンバリング：LGH-CUA606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ
3. 授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Closely examine theories and ethnographic research in cultural anthropology and analyze the trends in major conceptualizations and concerns of the discipline.
5. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。
最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Systematically understand the research trends in cultural anthropology and develop one's own research interest.
Create working bibliography and complete a literature review regarding one's own research theme.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 研究動向の整理と検討
 3. 研究動向の整理と検討
 4. 文献講読
 5. 研究動向の整理と検討
 6. 研究動向の整理と検討
 7. 研究動向の整理と検討
 8. 文献講読
 9. 研究動向の整理と検討
 10. 研究動向の整理と検討
 11. 研究動向の整理と検討
 12. 文献講読
 13. 研究動向の整理と検討
 14. 研究動向の整理と検討
 15. 最終報告
8. 成績評価方法：
発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]
9. 教科書および参考書：
授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学研究演習Ⅲ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LM12208, 科目ナンバリング：LGH-CUA607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語古典原書講読
2. Course Title (授業題目)：Classics in Cultural Anthropology
3. 授業の目的と概要：文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。
今セメスターは、第11章を訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版（1965）を用いる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Read and translate selected chapters from Franz Boas, The Mind of Primitive Man (1938) and learn the academic way of understanding the classics.

This semester, we will read and translate chapter 11 using the 1965 version of the text.

5. 学習の到達目標：(1) 学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。
(2) 文化人類学の古典の息吹に触れる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Acquire academic translation skill.
2. Appreciate a classic in anthropological literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
オンライン授業（主としてオンデマンド型遠隔授業）
この授業はオンデマンド方式と双方向遠隔授業とを組み合わせる予定です。

授業計画

- 第1回：導入、授業法式の説明
- 第2回：「文学部的」訳出法
- 第3回：テキスト訳出 P. 180-181
- 第4回：テキスト訳出 P. 182-183
- 第5回：テキスト訳出 P. 184-185
- 第6回：テキスト訳出 P. 186-187
- 第7回：テキスト訳出 P. 188-189
- 第8回：テキスト訳出 P. 190-191
- 第9回：テキスト訳出 P. 192-193
- 第10回：テキスト訳出 P. 194-195
- 第11回：テキスト訳出 P. 196-197
- 第12回：テキスト訳出 P. 198-199
- 第13回：テキスト訳出 P. 200-201
- 第14回：テキスト訳出 P. 202-203
- 第15回：総括論

受講生は毎回、指定の箇所の訳文をGoogle Classroomで提出し、後日見本訳とその解説を参照して訳文を修正し、再提出する。

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：
下訳の作成と修正作業（50%）、訳稿の検討への参加（50%）による。
9. 教科書および参考書：
Franz Boas, The Mind of Primitive Man, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.
10. 授業時間外学習：毎週、2頁ほどの英文の下訳を作成する。授業での議論に基づいて、下訳を修正する。訳注作成のための資料収集と分析を行う。
Prepare translations for 2 pages of the text each week. Participate in classroom discussion on translations. Collect and analyze materials for creating footnotes to translations.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：文化人類学研究実習 I / Cultural Anthropology(Field Research) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LM13304, 科目ナンバリング：LGH-CUA608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワークの理論と方法
2. Course Title (授業題目)：Theory and Method of Fieldwork
3. 授業の目的と概要：文化人類学的調査に必要な基礎技術を、実際の訓練を通して習得し、様々な場面での応用について議論を通して学習する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Learn the basic skills needed for anthropological research through training and learn how to apply these skills to various social issues.
5. 学習の到達目標：(1)文化人類学的な調査技法の習得。
(2)文化人類学的な調査技法の応用力の涵養。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Acquire basic skills of anthropological research.
(2) Acquire basic skills for applying anthropological research methods to social issues.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業計画
第1回：導入 授業方法の説明
第2回：研究倫理1 特に人類学的フィールドワークの倫理
第3回：研究倫理2 特に調査報告執筆における倫理
第4回：研究方法1 非参与観察
第5回：研究方法2 参与観察
第6回：研究方法3 非構造的インタビュー
第7回：研究方法4 構造的インタビュー
第8回：研究方法5 ライフヒストリー法
第9回：研究方法6 文献データの収集法
第10回：研究方法7 音声データの収集法
第11回：研究方法8 映像データの収集法
第12回：分析方法1 質的データの分析法
第13回：分析方法2 量的データの分析法
第14回：分析方法3 映像・音声データの分析法
第15回：分析方法4 文字データの分析法
定期試験は実施しない。

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。
8. 成績評価方法：
平常点(50%)と研究計画書(50%)による。
9. 教科書および参考書：
適宜、教室で指示する。
10. 授業時間外学習：自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学研究実習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Field Research)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LM23304, 科目ナンバリング：LGH-CUA609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワークの理論と方法
2. Course Title (授業題目)：Theory and Method of Fieldwork
3. 授業の目的と概要：文化人類学的調査結果を報告書にまとめるために必要な基礎技術を、実際の訓練を通して習得し、様々な場面での応用について議論を通して学習する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Learn the basic skills needed for anthropological writing through training and learn how to apply these skills to other types of writing.
5. 学習の到達目標：(1)文化人類学的な調査技法の習得。
(2)文化人類学的な調査報告執筆法の習得。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Acquire basic skills for fieldwork
(2) Acquire basic writing skills for anthropological reports.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業計画
第1回：導入 授業方法の説明
第2回：エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性
第3回：民族誌的記述1 参与観察の記述
第4回：民族誌的記述2 インタビューの記述
第5回：民族誌的記述3 文献資料の利用
第6回：民族誌的記述4 映像・音声データの利用
第7回：民族誌的考察1 「事実」と「解釈」
第8回：民族誌的考察2 先行研究との「事実」の対比
第9回：民族誌的考察3 先行研究との「解釈」の対比
第10回：民族誌的考察4 「事実」と「解釈」の総合的考察
第11回：論文執筆法1 「事実」と「解釈」の書き分け
第12回：論文執筆法2 論文の文体
第13回：論文執筆法3 論文の形式
第14回：論文執筆法4 パラフレーズの活用法
第15回：論文執筆法5 直接引用の活用法
定期試験は実施しない。

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。
8. 成績評価方法：
平常点（50%）と研究実習報告書（50%）による。
9. 教科書および参考書：
適宜、教室で指示する。
10. 授業時間外学習：自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
前期の文化人類学調査実習Ⅰを必ず履修していること。
授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学特論V／ Cultural Anthropology(Advanced Lecture)V

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン

コード：LM25301, 科目ナンバリング：LGH-CUA610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：災害人類学

2. Course Title (授業題目)：Anthropology of Disaster

3. 授業の目的と概要：文化人類学における21世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disasterという言葉は、自然災害（地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火）、人為的事故（戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故）、環境と健康危機（飢饉、疾病、汚染、熱波）など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の種類、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： Anthropology's opening of the twenty-first century has been marked by a growing field surrounding the phenomena referred to as "disasters". The word disaster brings to mind natural hazards (earthquakes, hurricanes, tsunamis, floods, volcanic eruptions), so-called man-made accidents (plane crashes, train derailments, nuclear accidents, car accidents), epidemics, famines, wars, genocides and more recently, terrorist attacks. Reflecting on its legitimacy and development, this course will introduce some of the common issues and themes concerned by the anthropology of disasters: Nature-culture, community, vulnerability, resilience, solidarity, social justice, politics of death, collective memory and representations. Drawing from these discussions, this course shows how disaster anthropologists may contribute to understanding and dealing with disasters. We hope that this course will provide students with the necessary tools to develop their knowledge and an interest in applying anthropological knowledge in the contexts of disasters.

5. 学習の到達目標：1. 災害問題について理解を深める。

2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。

3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Understanding disaster issues

2. Learn and Critically assess the ideas and practices related to disaster from the point of view of anthropology

3. Think practically about one can contribute to disaster activities.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. コースのイントロダクション
- II. 現代世界における災害
- III. 人類学の視点から見た災害
- IV. リスクと脆弱性について
- V. 減災におけるレジリエンス
- VI. 気候変動、適応、脆弱性
- VII. 災害時の社会的連絡
- VIII. 災害コミュニティの移動と移動
- IX. 映画スクリーニング 1: Fighting for Nothing to Happen
- X. 想像的な災害コミュニティ
- XI. 犠牲者、追悼、メモリアル宗教と災害
- XII. 宗教と災害
- XIII. 映画スクリーニング 2: 東日本大震災と仏教
- XIV. 災害ツーリズム、記憶、語り部
- XV. 将来の災害文化人類学

8. 成績評価方法：

授業参加、小テスト、ミニレポートを総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はなし。読書リスト 研究室で適宜指示する。

No textbook. Reading list and handouts

10. 授業時間外学習：読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

Lectures notes and written memos based on the reading (articles and chapters). Review with other students after each lecture.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし